

令和 7 年 3 月 31 日現在

1 施設名称

しらとり保育所
(開設 昭和 41 年 6 月 1 日)

2 所在地

松江市内中原町 190

3 事業計画の達成状況

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	働きやすい職場と人材確保
取組の方向性 ①	ハローワークや保育人材バンクと連携しながら情報収集を行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制に合わせてハローワーク、福祉人材センターに随時求人を出す。(継続) 広報活動により当所をアピールするとともに、定期的に関係機関と連絡を取り求人状況の確認を行う。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク、人材バンク、マザーズコーナーと連携を取り、求人情報を掲載したところ、施設見学の希望が数件あり、人材確保に繋がった。 民放テレビの情報番組やケーブルテレビ等に積極的に行事等の情報を提供し出演することで保育所の知名度アップを図ることに加え、定期的に関係機関と連携をとり求人状況を確認した。
取組の方向性 ②	実習生の受け入れを計画的に行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 各養成校と連携を深め、積極的に実習生の受け入れを行う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 養成校からの実習希望者 1 名を受け入れた。また、学生ボランティアの希望があり、1 名を受け入れた。今後も養成校との連携を図る他、高校、中学の職場体験についても積極的に受入を行っていく。
取組の方向性 ③	職員一人ひとりがやりがいを感じて業務に当たることができるよう、働きやすい環境づくりを進めていく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 新任職員の指導担当者を決め、気軽に相談したり支えたりすることができるよう定期的に話す機会をもつ。(継続) 所長、主任保育士が中心となって日頃から職員一人ひとりの気づきや良さを認める声かけを行う。(継続) 相談の機会を確保するため、所長との面談を実施する。(年 2 回)

	(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任職員と指導担当者が定期的に話すことで、日頃気になっていることを相談する機会とした。 ・ 所長、主任保育士が職員一人ひとりに声をかけ、気づきや良さを認めた。 ・ 所長が年2回全職員と面談を行うとともに、日頃から声を掛け合い相談しやすい雰囲気づくりを行った。

実施施策	広報活動の強化
取組の方向性①	求人状況に合わせ、幅広い視野で広報活動をする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な求人情報となるよう、働く職員の雰囲気が伝わる写真をInstagramに定期的に掲載する。(年3回)(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ Instagramに写真を年4回掲載し、職員がやりがいをもって働いている様子をPRした。
取組の方向性②	ホームページを随時更新し、保育所の魅力を発信していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入所希望者等に興味を持ってもらうことができるよう、ホームページの構成を検討し上半期の内に見直す。また、掲載情報や写真を新しいものに更新する。(年4回)(変更) ・ 保育所の魅力を発信する手立てとして、地域のイベント等に積極的に参加する、テレビ各局や新聞社等へ取材を依頼するなど、多方面に働きかける。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの掲載内容を年4回見直し、情報がタイムリーなものとなるように更新したが写真やホームページの構成については検討したものの変更には至らなかった。今後、より分かりやすいホームページとなるよう、事務局担当者と連携して取り組んでいく。 ・ 地域の観光施設のイベントに参加し取材を受けた。また、テレビの情報番組に出演し、保護者や関係者等から反響があった。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	チーム保育の確立
取組の方向性①	職員全体がチーム保育について共通意識をもって取り組むために、保育所の研究目標を明確に設定する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究目標に基づいた研究を継続する中で、一人ひとりが力を発揮し協働する。(変更) ・ チーム保育の大切な一員として地域とのつながりを大切にし、地域

		の人との交流や地域資源の活用を進める。(変更)
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 研究目標に基づき、各グループで継続して研究に取り組んだ。 近隣施設や近隣住民から虫の幼虫や季節の草花を頂くなど地域のつながりが感じられた。また、ボランティア募集を地域に発信したところ、玩具の修繕や製作などの協力を得ることにつながった。
取組の方向性②		チーム保育に関する研究グループを中心に、チーム保育の意義を職員全体で共有しながら「地域資源」を活かした保育となるよう、職員が主体となって取り組み、研究を充実させる。(変更)
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 地域の中で子どもの育ちが支えられていることを踏まえ、地域の人と交流することの意図を職員間で再確認する。(新規) 所外保育や行事等検討するうえで、幅広く「地域資源」を活用する。(新規)
評 価		<ul style="list-style-type: none"> チーム保育研究グループを中心とした所内研修を行い、自分の気づきを言葉にして語り合うことで、自分では気づかないことに目を向ける機会となった。 松江歴史館や城山公園、堀川遊覧船、一畑電車等、「地域資源」を所外保育や行事で活用した。地域の人との関わりを通して、交流の大切さを実感した。

実 施 策		主体的な職員研修の実施
取組の方向性①		保育士キャリアアップ研修等、様々な分野の研修に計画的に参加する。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に研修計画を作成し、計画に沿って職員を研修に派遣する。(継続) 様々な研修に職員が参加できるよう、リモート研修や動画配信等を有効活用し、学びの機会を確保する。(継続)
評 価		<ul style="list-style-type: none"> 研修計画に沿って必要な内容の研修を受講できるよう職員を派遣した。当初の計画になかった外部研修の案内が多くあり、受講すべき内容を見極めて参加を促した。 リモート研修や動画配信等の研修も多く、非常勤職員も積極的に参加した。
取組の方向性②		外部講師を招いた実践的な研修を継続して組み入れ、多くの職員が学ぶ機会をもつ。
行 動 計 画		<ul style="list-style-type: none"> 様々な専門分野（造形・自然環境）の講師に指導を依頼し、保育に活かすことのできる実践的な研修を実施する。(変更)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野の外部講師を招き、所内研修を計画的に行った。自然環境の指導では、子どもと共に職員も参加し、新たな保育手法や自然環境への考え方を知ることができた。
取組の方向性③	所内研修において、各年度で担当者を中心に取組方法を検討し、全職員が一体となって主体的な学びや積極的な参加となるよう計画する。(変更)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 職員が主体的に学べるように、職員を講師としグループワークを中心に参加型の研修を行う。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 職員が講師となりグループワークを中心とした所内研修を実施した。意見を活発に伝え合い、主体的に学ぶ姿勢が多くみられるようになった。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実 施 策	コミュニケーションの活性化
取組の方向性①	副主任保育士やチーフを中心に個々の担当業務の進捗状況を把握するとともに、ホワイトボードで業務の「見える化」をし、職員一人ひとりが協働する意識をもつ。(変更)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容や共有スペースの使用について表示するなど、ホワイトボードを有効活用し、業務の見える化を定着させる。(変更) 合同保育における保育士配置を見直し、保育士が担当以外のクラスとの関わりを持つことで他クラスにも目が向くようにする。(変更)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 業務の「見える化」を進め、保育内容や共有スペースの活用に有効であった。抱えている業務内容や期限を表示するなど、さらに業務の「見える化」を進めていく必要がある。 合同保育の際に保育士が担任以外のクラスとの関わりを意図的に持つことで、他クラスにも目が向きやすくなった。
取組の方向性②	ハラスメント防止の研修に参加したり、それを復命したりすることでハラスメントに対する意識を高め、互いの気持ちを言い合える職場内の雰囲気作りをする。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止のため、アンガーマネジメントについての所内研修を計画し、全職員が参加できるよう同一内容で2日間実施する。(変更)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> アンガーマネジメントについての内容を中心に所内研修を2日間実施し、大多数の職員参加があった。自分自身の感情と向き合い、コントロールすることやグループワークをとおして互いの価値観や優先順位の違い、様々な思いや考えがあることを知り、ハラスメント

		防止の意識が高まった。
取組の方向性③		意見交換会やレクリエーションなど継続して実施することで、職場内のコミュニケーションを活発にし、円滑な関係性を作っていく。(変更)
	行動計画	・ 活発にコミュニケーションをとることができるよう、意見交換会やレクリエーションの開催方法及び内容を見直して実施する。(年1回)(継続)
	評価	・ 雇用形態ごとに意見交換会を行うことで日頃会議等に参加することの少ない職員も参加し、テーマに沿って互いの気づきや考えを活発に話し合った。また、レクリエーションを業務時間内に実施し、リフレッシュの機会となった。

実施施策	職員の意識改革	
取組の方向性①	職員一人ひとりの学ぶ意識を向上させ、業務に取り込む視点をもつ。	
	行動計画	・ 新しい時代の保育ニーズに即した柔軟な考え方を学ぶため、公開保育等様々な研修に参加し保育や業務改善に反映させる。(継続)
	評価	・ 多くの職員が外部研修に参加することで、人権や安全管理など様々な視点で学び、保育の専門性を高め業務改善に活かしている。
取組の方向性②	保育の中で大切にすべきことを職員間で共有するとともに、改善点を協議していく。	
	行動計画	・ 保育食育検討会にチーフ以外の職員も参加し、保育を語る時間を設ける等内容を工夫して実施する。(変更)
	評価	・ 保育食育検討会にはチーフ以外の職員も参加し、3歳未満児保育研究グループ及び3歳以上児保育研究グループにてグループ会の中でクラスを超えて保育を語り合った。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ICT化の推進	
取組の方向性①	ICT化推進検討チームで、利用者への影響を考慮した上で、ICT化できる部分を検討し推進する。(変更)	
	行動計画	・ ICTの活用について経営企画会議において進捗状況を毎月確認し、活用を進める。(変更) ・ キッズビューのおたよりノート機能の活用を進めていく中で、年齢別に内容を精査し業務の効率化に繋げる。(変更)
	評価	・ 毎月の経営企画会議において、ICTの活用状況を毎月確認した。 ・ ICTの活用を進めていく中で注意事項や新たな機能、おたよりノー

		トの便利な使用方法について共有した。
取組の方向性②		集中して保育事務にあたる時間と場を確保していく。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 「ノンコンタクトタイム」を確保していくため、おたよりノートや保護者へのお知らせ方法を見直す。(変更) 各クラスの ICT 機器の活用状況を確認し、有効的に使用できるようにする。(変更)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 年度初めにおたよりノートや保護者へのお知らせ、保育計画作成についてキッズビューに移行したことに加えタブレットを追加購入したことで、業務の効率化を図ったがノンコンタクトタイムの確保までは至らなかった。 事故記録と事故分析、夏季の体調把握、出席簿の取り扱い、クラスだよりや保育所だより、献立表の配信について、ICT化が定着したことから今後、保護者宛文書の取り扱いについて検討し、業務改善と保護者の利便性の向上につなげる。

実施施策		心身の健康管理
取組の方向性①		働き方について考え、より休暇の取りやすい雰囲気となるよう職員全体でワークライフバランスを推進していく。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 自分のライフステージをイメージし、働き方や休暇の取り方を職員間で語り合うことで、ワークライフバランスについて考える機会をもつ。(継続)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 年度当初にワークライフバランスについて全職員で考える機会をもち仕事や私生活で大切にしたいことを語り合い、働き方や休暇に対する考え方を伝え合ったことで有給休暇取得の推進に繋がった。
取組の方向性②		職員一人ひとりがメンタルヘルスについて理解を深め、心身の健康管理について意識を高め充実させる。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 職員のメンタルヘルス研修を実施する。(年1回) (継続)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 10月に外部講師を招いたメンタルヘルス研修を2回に分けて実施したことで、全職員が参加することができた。セルフケアについて学び、メンタルヘルスに対する知識と理解を深めた。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策		保育内容の質の向上
------	--	-----------

取組の方向性①	新たな保育ニーズに対応するため、研究グループを再編し、研究を充実させる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 研究目標に基づいた3年間の研究成果をまとめ、松江市保育研究会において研究発表を行う。(新規) 外部講師の指導のもとで研究を深め、研鑽する。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 松江市内の他所園の職員が参加する松江市保育研究大会において、研究発表を行った。参加者や指導講師からの評価により、研究成果を職員自身が感じる機会となった。今後、研究の取り組み方について検討し、職員が主体的に取り組むことができるようにしていく。 「げんき・ゆうき・こんき」3つの「き」を育てよう～子どもが自ら遊んだり生活したりする環境づくり～」をテーマに、外部講師の指導による研究保育を年4回行った。
取組の方向性②	行事のあり方を協議し、保護者の意見を反映しながら年ごとに計画する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 行事の参加人数や時間制限の緩和について検討し、行事のあり方を見直す。(変更) 行事におけるねらいや保育方針の伝え方を工夫して保護者に伝えていくとともに、行事ごとの振り返りを大切にし、次に生かしていく。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> バス代など様々な値上げがあり、内容を変更や予算の見直しを要したが、行事のあり方を検討し子どもにとって必要な経験を考慮して計画した。 おたよりや行事の機会を通して保育のねらいや方針を保護者に伝えることで、保育の意図を理解し保護者の満足度を高めることに繋がった。
取組の方向性③	子どもの成長段階を見通した保育計画の立案となるよう、クラス内やフロアでの話し合いをさらに深める。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> クラス保育に関する月ごとの振り返りの時間を確保し、翌月の保育計画に反映する。(継続) 保育検討会において各クラスの保育について月ごとの振り返りと翌月の方向性を話し、全体で共有する。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> クラス保育に関してクラス内で振り返り、翌月の計画立案に活かした。 保育検討会において、保育の振り返りと翌月の保育について各クラス担任から話し、共有した。
実施施策	個別の保育的ニーズの保障

取組の方向性①	インクルーシブ保育に関する研修に参加し、クラス運営に活かしていく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象に、インクルーシブ保育に関する研修を実施する。(年1回) 現状に応じた個別の保育的ニーズのある内容を盛り込む。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いたインクルーシブ保育研修を実施し、人権について全職員で学んだ。
取組の方向性②	職員が相互講師となり主体的に研修を実施する中で、職員間で学びを共有していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 研修ごとに職員が小グループで話し合う機会をもち、主体的に学ぶ。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 職員が小グループで話し合うことで活発に意見交換し、主体的な学びとなった。
取組の方向性③	一人ひとりの子どもの育ちについて個人懇談や支援会議を行い、細やかな保護者支援を行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援について、所内支援会議を実施し支援の方法を探る。(継続) 個人懇談を実施し、保護者の思いを傾聴し寄り添いながら相談に乗る。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 所内支援会議を定期的実施し、職員間で個別の支援について共有したことで、様々な職員が関わりながら支援方法を探ることができた。 個人懇談の実施に加え、必要に応じて個別に面談の機会を設けた。保護者と子どもの育ちや姿を伝え合い、保護者の思いを傾聴しながら相談を行った。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	社会的背景に応じたリスク管理
取組の方向性①	各種危機管理マニュアルを周知し、現状に合わせて見直す。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練に合わせ安全計画の内容や各種危機管理マニュアルの読み合わせを行い、内容を見直す。(継続) 大地震や水災害等実際起こり得る想定を盛り込んだ訓練を計画する。(変更) 不適切な養育や不適切な保育について保育者自身が振り返る機会となるよう所内研修を行う。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にマニュアルの読み合わせを行い内容の確認と見直しを行った。

	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の避難訓練において、大地震や水害等、様々な想定での避難訓練を実施した。 人権に関する所内研修を年2回行った。また、人権擁護のためのチェックリストを用いたセルフチェックを年2回行い、不適切保育の防止について意識を高めた。
取組の方向性②	<p>保育所生活の中で、子どもの成長や発達を支えることと、けがや誤飲等のリスクを回避し安全を確保することのどちらが子どもにとって最善であるか、職員間で協議するとともに保護者への理解を図る。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のリスク管理検討委員会においてヒヤリハットを重点的に検証し、事故防止を強化する。(継続) 交通事故、車内置き去り事故、誤嚥事故、生命の安全教育等について朝の集いの計画に盛り込み子どもたちに指導する。新たな教材を購入し、教材を活用して保護者への理解も図っていく。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理検討委員会で毎月分析と検証を行った。また、事故記録をICTでリアルタイムに共有し、事故防止に繋げた。 毎月安全点検を行い、環境を見直すことで安全で生活しやすい環境を整えた。また、「朝の集い」で教材を活用し、児童及び保護者へ啓発を行った。

実施施策	保育環境の改善
取組の方向性①	安全性を重視するあまり子どもの主体性を削いでしまわないよう環境づくりを見直す。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 体づくりを強化するため運動遊びの機会を増やすことができるよう、他クラスと連携して準備や片付けを行うことで遊びの幅を広げる。3箇月に1回取組を話し合う。(変更) ものを大切にする気持ちを育むため、職員がSDGsについての意識を高め、共通意識を持って折り紙の使い方を考える等、子どもにも伝えみんなで取り組んでいく。(継続) 手作りおもちゃや収納箱を修繕し、活用を進める。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 他クラスと連携して運動遊びの環境づくりができるよう、グループ会を中心に取り組み、遊びの幅が広がった。 SDGsについて外部講師を招いて「朝の集い」で取り上げ、子どもとともに職員も意識を高めた。 保護者、地域の人に働きかけ、職員と共に手作りおもちゃ等の修繕を進めた。
取組の方向性②	共有スペースの活用について職員間で検討することで、子どもの生活や

	遊びの様子に合わせて保育環境を充実させる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所庭で子どもが年間を通して自然に触れて遊ぶことができるよう、草花を計画的に植える等環境を整える。(継続) ・ 所庭での遊びを充実させるため、職員間で話し合い可動遊具や玩具、教材や素材等を定期的に入れ替える。(継続) ・ 共有スペースを中心に、子どもの過ごす場の清潔を維持するためクリーンタイムを実施する。(週1回)(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達や興味に合わせて時期を予想し、計画的に所庭に草花を植えた。異常気象などで計画通りにいかないものもあったが、保存方法を工夫するなどして遊びや製作等に活かしていった。 ・ 可動遊具や玩具の取り扱いについて話し合い、新たな教材や素材を遊びの流れに応じて入れ替えた。 ・ 毎週クリーンタイムを設けたことで、共有スペース等を清潔にすることができた。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実 施 策	地域の子育て支援
取組の方向性①	一時預かり保育を利用する家庭のニーズに細やかに応えるため、チラシやポスターなど PR の方法を随時見直し、子育て支援事業として進めていく。(変更)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時預かり保育検討チームにおいて、利用者のニーズや個々の状況を共有し、地域の子育て支援に役立つ内容を話し合う。(継続) ・ 親子で集ったり、集団の中で子どもの育ちを見てもらったりする機会を設けるため、「わくわく参観日」を企画する。(7月・11月)(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討チームで定期的に話し合いを行い、利用状況や子どもの状況等を共有した。 ・ 「わくわく参観日」を年2回実施し、保護者同士の交流の機会となった。
取組の方向性②	保育所開放「なかよし広場」の実施方法について、社会情勢や地域のニーズに合わせて検討していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なかよし広場」を計画的に実施する。(5月～12月、年12回)(継続) ・ 「なかよし広場」の受け入れ人数を増やし、保育室の活用や給食試食などを検討して内容を充実させることで保育所により親しんでもらう。(変更)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予約の人数枠を広げ年 12 回実施し、前年度より多くの利用があった。保育室を活用したことで、発達に応じて落ち着いた雰囲気を実施できた。給食試食も検討したが、感染症予防対策を行う必要があり見合わせた。 ・ 入所や一時預かり保育の利用を検討している家庭も多く、見学や説明を丁寧に行い、利用に繋げた。
-----	--

実 施 策	小学校及び地域との連携の見直し
取組の方向性 ①	保幼小と必要な連携を図ることができるよう、各校・園・所と連絡を取り合う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校や近隣の保育施設に研究保育を公開し、保幼小の連携を深めるとともに、他施設の公開保育等に積極的に参加する。(継続) ・ 子どもが小学校を身近に感じられるよう、近隣の保育施設と連携し小学校等に出かけ、5 歳児同士や小学生と交流する機会をもつ。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 歳児クラスの公開保育を実施し、小学校や近隣の保育施設からの参加があり、ともに保育を検討した。また、他施設の公開保育に 5 名が参加した。 ・ 内中原小学校区の保育施設と連携して計画し、年 3 回の交流を実施した。
取組の方向性 ②	地域との交流は、交流の在り方を見直し、交流活動や意見交換会等を実施していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣福祉施設や住民を招待し、和太鼓演奏を披露する。(10 月)(継続) ・ 地域に呼びかけ、避難訓練を近隣施設と合同で実施する(年 1 回)(新規) ・ 感染症等の状況に応じて法人内の施設と連絡を取り合い、実施可能な交流活動を実施する。(継続) ・ 子どもが地域とのつながりを感じることができるよう、近隣の商店に買い物に出かける等の交流を行う。(継続) ・ 地域住民の意見を聞くことができるよう、地域住民を対象に保育所についてのアンケート調査を実施する。(年 1 回)(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月に地域住民及び法人内施設と和太鼓交流会を実施した。 ・ 11 月に新たに防災訓練への参加を地域に働きかけたところ 12 名の参加があり、地域との連携の重要性を再認識した。 ・ 計画通り厚生センター八雲及び光風園と交流活動を行った。感染症

	<p>予防を考慮し、距離を取るなど直接触れ合うことの内容に配慮して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の観光施設等に子どもが出かけ、地域とのつながりを感じる機会となった。 ・ 地域住民を対象としたアンケートは、保護者アンケートと同様にグーグルフォームから回答を求めた。保護者アンケートは 57 件の回答があったが、地域住民からは回答が 0 件であり実施方法に課題が残った。
--	---

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	圏域の利用ニーズに基づく利用定員の弾力運用
取組の方向性①	利用可能な各種補助金や加算の制度について情報収集し、活用することで収入確保につなげる。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収支を安定させるため、補助金について情報収集し活用する。(継続) ・ 関係機関と連携を取りながら、現状に合わせて可能な加算を利用できるように検討する。(継続)
評価	・ 算定可能な加算や補助金について活用し、収入に繋げた。
取組の方向性②	年々変わる制度や圏域の状況変化に速やかに対応できるよう情報収集を行うことにより、年度ごとに内部の体制を調整していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月ごとの入所児童の受け入れを積極的に行い、入所児童を確保する。(継続) ・ 各年齢の入所児童数の動向を把握した上で、3 歳未満児の利用を確保する。(継続) ・ 利用状況に応じて募集年齢枠の変更、保育室の環境の見直しなどを検討する。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度途中で短期間の入退所が多かったものの、年間平均 118%の利用があった。 ・ 松江市からの待機児童数を参考に月ごとの入所募集年齢枠を変更し、入所児童数を確保した。

実施施策	一時預かり保育事業の見直し
取組の方向性①	計画的に受け入れる人数を確保するとともに、年度ごとに経営状況に合わせた職員の配置を検討する。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に利用者数や地域のニーズを分析し、月ごとの受入人数の目標を設定する。(継続)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 一時預かり検討チームで定期的に経営状況や PR 方法を検討しながら進めた。継続的な利用希望者が多く、安定した利用があった。
取組の方向性②	一時預かり保育を利用する家庭のニーズに細やかに応え、地域の子育て支援を推進し、選ばれる施設となるよう PR 活動を継続する。(変更)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 一時預かり保育担当者が収集した利用希望者の人数や年齢構成等をもとに、入所条件の見直しを検討チームで協議する。(継続) ポスターやチラシ、ホームページなどの広報を活用し、一時預かり保育についての PR を広げる。(変更) 子育てに悩みを抱えている家庭には積極的に働きかけ、保健師と連携を図る等子育て支援を進める。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 安定した利用があったため、入所条件の見直しは実施しなかった。 年度初めにポスターやチラシを関係機関等に持参し PR した。 3歳児健診や1歳半健診に合わせて保育所の様子を家庭に伝える等、相談や支援につながるよう働きかけた。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実 施 策	施設の修繕と維持管理
取組の方向性①	月1回の安全点検に加え遊具の自主点検を行い、早期に危険個所を発見し修繕する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 遊具の自主点検を定期的に行う。(6月)(継続) 日々の業務の中で気づいた危険個所を日頃から共有し、安全性について意識する姿勢をもつ。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 6月に遊具の自主点検を行い、危険個所を確認した。 危険個所に関する気づきを ICT のヒヤリハットに挙げ、タイムリーに共有した。
取組の方向性②	修繕にあたっては計画の段階から業者と連携を密にして実施する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 築25年が経過し修繕の必要な個所が出ていることから、事務局と連携し、利用者も職員も使いやすい環境となるよう将来を見通した大規模修繕計画を策定する。(新規) 自主点検の結果に問題がある場合には、早急に業者と修繕の時期や内容等の打ち合わせを行い、対応する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 大規模修繕計画については、令和7年度に設計業者を交えて検討することとした。 修繕が必要な個所については、業者と相談し、優先順位をつけながら対応した。

取組の方向性③	所庭遊具については専門業者による点検を継続して実施し、点検結果をもとに計画的に修繕や更新を検討する。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 外部の委託業者に所庭遊具や設備の点検を依頼し、定期的を実施する。(12月)(継続) 点検結果をもとに所庭遊具の安全性を確認し、安全に遊ぶことのできる環境を保つ。(変更)
評価	9月に専門業者による点検をした結果、直ちに修繕が必要な箇所はなかったが、今後修繕が必要な箇所について職員に周知した。

実施施策	備品の管理と計画的な整備
取組の方向性①	備品のリストを更新し定期的にチェックする。(変更)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 備品リストを担当者が定期的にチェックし、変更点があれば修正する。(継続) 日頃から整理整頓しやすくするよう、計画的に環境整備を行う。(年6回)(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 備品リストに沿って、保管場所等定期的にチェックを行った。 年6回各所の環境整備を行い、整理整頓しやすくした。
取組の方向性②	担当者を中心に、計画的な備品のメンテナンスにつなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 場所ごとに担当者を決め、備品の状態や劣化を把握する。(継続) 備品リスト及び取扱説明書のファイルを階ごとに管理し、活用する。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 担当者で備品の状態把握に努め扇風機や電子ピアノを修繕した。 備品リスト及び取扱説明書のファイルを活用し、正しい使用方法を確認してから使用することを徹底した。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	法令遵守の徹底
取組の方向性①	関係法令の遵守について自己評価していくとともに、職場内で啓発していくことで日頃から意識して取組を更に強化する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 人権や個人情報保護に関して、職員一人ひとりが常に意識していけるよう、最新の情報を周知する。(継続) 人権擁護のためのチェックリストを使用し、セルフチェックを定期的に行う。(年2回)(新規) 重要事項説明書について、年度前半に職員で内容の読み合わせを行う。(新規)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権や個人情報保護に関する内容を職員会で取り上げ、周知した。 ・ 人権擁護のためのチェックリストを使用したセルフチェックを5月と1月に実施し、人権に対する職員の意識を高めた。 ・ 重要事項説明書の読み合わせを5月に行い、内容を周知した。
取組の方向性②	<p>制度改革の動向について所内で検討し、法人本部の意見も聞きながら判断して安定的な経営につなげていく。</p>
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な経営をしていくため、行政や近隣保育施設の情報を収集する。(継続) ・ 経営状況や制度改革の動きについて経営企画会議で情報共有する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市から待機児童の状況や保育施設の新設予定地域についての情報提供があり、月ごとの受け入れ児童数に反映させた ・ 保育所の経営状況や国の施策について、経営企画会議で周知し、職員の理解を図った。

実 施 策	所内の連携強化
取組の方向性①	副主任をミドルリーダーとして位置づけることで内部の連携を強化する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員一人ひとりが協働する意識を持ち、報告、連絡、相談を細やかに行う。(変更) ・ ミドルリーダーとして視野を広く持ち、クラスの体制や業務に応じて声かけを行う。(変更)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員一人ひとりが細やかに連絡を取り合い、他クラスと連携して保育を進めた。 ・ 副主任が率先して声掛けしクラス体制や業務を調整した。
取組の方向性②	チームで取り組むべき課題が発生した時には、検討チームを立ち上げ、職員一人ひとりが役割をもって課題解決に取り組む。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT化推進検討チーム・一時預かり事業検討チーム・自己評価検討チームにおいて、意見を幅広く集め、会議等で内容を全職員に周知し共有する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT化推進検討チームでは、キッズビューを活用する中で出た課題を検討し、新たな活用内容や使用方法を周知した。 ・ 一時預かり事業検討チームでは、担当者と管理職が情報共有することで、安定した受入につながった。 ・ 自己評価検討チームでは、メンバーが討議を重ね保育所の自己評価を行った。そこで出た課題に対し、次年度の事業計画の内容に反映

		させた。
--	--	------